

研究報告

## ユニバーサル・ファッションの普及に関する考察

—個別対応から一般性を見出す実践的研究—

富田 玲子<sup>1)</sup> 大信田静子<sup>1)</sup> 高岡 朋子<sup>2)</sup>

1) 北翔大学教育文化学部芸術学科 2) 北翔大学北方圏学術情報センター研究員

## 抄 録

ユニバーサル・デザインをそのままファッションにあてると、誰もが着やすい衣服の実現と考えられる。しかしながら、衣服を選ぶうえでは、一人ひとりのサイズも違えば体型も違うことから誰もが着やすい衣服を実現しようとするのは困難である。ユニバーサル・デザインの考え方は、誰もが幸せで豊かな生活を送ることができる社会や環境を提供しようと言うことであるが、ファッションの視点からは、たとえば、同じ服を着ていたら、これは、はたして豊かな状況かという必ずしもそうではない。一番弱い立場の人でも、豊かな生活が送れる環境を作るためには、自分の好きな色、好きなデザインを自由に選べるような多くの選択肢が必要とされなければならない。

そこで、個人を尊重した着想願望こそが重要であると考えた。高齢者、障害者の嗜好や不満に基づいて、彼らの好みや体型が配慮された作品作りを試み、一人ひとりが求めるファッションを多くの人に提供することを目的に実践的研究を行った。高齢者がファッションについて、どのような嗜好や不満を持っているのかを明らかにし、身体機能やその障害を配慮しながらも、高齢者自身の嗜好や不満の解消を視点としたデザインに基づく試作品の製作、さらに本人による着装評価および第三者による着装評価などのフィードバックから、一般的なユニバーサルファッションのあり方を検討した。つまり個別にデザインされたものの中に一般性を見出し、大量生産可能な方法論を検討した。

キーワード：ユニバーサル、ファッション、高齢者、アパレル

## I. はじめに

高齢者をはじめ、すべての人が快適な暮らしを実現させ、生活の質（QOL）の向上を図ることは、様々な分野において大きな課題となっている。ファッション業界においても、高齢者を重要な対象とみなし、年齢やサイズ、体型、障害などに関わりなく快適な衣服の制作、いわゆるユニバーサル・デザインによる商品開発が行われてきている。さらに、それらを発表するファッションショーなど数多くのイベントが展開されている。

坂口昌章（2005）は、「ユニバーサル・ファッションの第一歩は、きめ細かいサイズ展開とされたことであり、日本の既製服が抱える問題点でもある<sup>1)</sup>と論じている。身体機能や障害など個人の条件は様々である。高齢者は普段の衣服について、デザイン、サイズ、色、柄、

素材の面で選択の幅が少ないと感じ、「機能性重視でファッション性に乏しく着たい服がない。マーケットが小さく普通の商店と変わらない」など、メーカー、売り場、消費者からユニバーサルファッションへの不満が寄せられていることは少なくない<sup>2)</sup>。また、そのことが、おしゃれすることに消極的な姿勢を作り出していると考えられる。つまり、高齢者も、明確な好みを持ち、自分に似合ったおしゃれをしたいという高い着装願望を潜在的には持っていることを、財団法人岐阜県産業経済振興センター「高齢者市場の活性化に関する調査研究報告書」の中で指摘している。このことは、機能性を考えた従来の高齢者用デザインについて、見直しが必要であると考えられる。つまり、デザインは、高齢者、障害者の嗜好や不満の調査に基づいたものであることが必要である。第2に、それが商品として購入しやすいものとなるためには、商業ベースに乗りうるデザインでなければならない

い。こういった点を考慮するならば、単にデザインを行い、試作品を製作するだけでは、その提案の妥当性の根拠を得ることは困難である。

以上のことから、筆者は、高齢者・障害者の現状における着装に関する嗜好や不満を調査したことを踏まえ、それに基づいて実際にオートクチュール技法（熟練した技術でオリジナルなモードを生み出すこと）によって製作すること、並びにその服の着心地や第三者における着装感に基づく評価を通して、個別にデザインされたものの中に一般性を見出し、大量生産可能な方法論を検討する。

なお、本研究で協力を求めた調査は、全ての対象者に趣旨を説明し、この研究以外には使用しないこと、公表の際は個人が特定されないことを説明している。さらに個々における着脱動作や試着時の写真撮影にも協力いただいた。これらの写真を提示し確認したところ快く了承いただき同意を得られている。

## Ⅱ. 方 法

### 1. 対象者

夕張郡栗山町の高齢者介護付賃貸住宅「廣樹庵」の入所者6名（A氏～F氏）女性3名、男性3名を対象に行った。入所者の選定については、高齢者自身の着装の好みや身体機能を明らかにすることを目的としているため、基本的に日常生活上のコミュニケーションを成立させることが可能な入所者に限定した。平均年齢は86歳である。日常生活自立度は、要支援介護の非該当者が1名、要支援1が1名、要支援2が1名、要介護1が2名、要介護2が1名の6名を対象とした。

### 2. 実施日

2009年10月～2010年5月

### 3. 調査内容

コミュニケーションを図るために、昔の若いころの思い出や人生の経験、日常生活、さらには身体機能やファッションに対する興味、関心、要望、着装の好みなど3回にわたり面談を行った。主たる疾患名、障害名、障害における機能障害程度（ADL：洗顔、起居・移動、歩行、更衣）や必要とする福祉用具、さらに着想の好み（アイテム別、ディテール別）<sup>1)</sup>、好む色彩（日本色研事業標準色カード230使用）や素材<sup>2)</sup>、衣服に対する要望など資料を提示し、オートクチュール技法で調査した。

## Ⅲ. 結 果

この調査の結果は、筆者における先行研究<sup>3)</sup>でも述べているが、①伸縮性のある素材 ②ウエストはゴムが良い ③袖ぐりがゆったりしているものが良い ④女性3名ともスラックスを希望している ⑤ポロシャツの裾をズボンの中に入れにくい（特に後） ⑥手持ちのジャケットに合わせてコーディネートを考える ⑦シャツのあき部分やカフスのボタンができない ⑧背中が寒い ⑨厚手の素材や綿入れは、重くゴロゴロして動きにくいなど、それぞれに現状の服に不満、要望が挙げられた。今回の目的であるオートクチュール技法に基づく試作品の製作を前提に行われた調査であることを考慮しても、高齢者の一般的な傾向としてとらえることができるのではないかと考えられる。これらを考慮したデザインを考案することが求められる。

今回は、②③⑤⑥を考慮に入れた試作品を紹介する。

### 1. 試作品「リバーシブルベストとカーゴパンツ」

入所者B氏、満79歳、男性。

現病歴は、脳梗塞後遺症、便秘症、高脂血症、糖尿病、浮腫。日常生活自立度：要介護1（介助により外出できる。たびたび道に迷うなど、これまでできたことにミスが目立つようになってきている）。歩行器を使用している。

聞き取り調査の結果を以下に示す。

- ・オシャレに対して興味がない
- ・両腕が70度までしか上がらない（やっとなら顔まで届く）
- ・上衣着用時は、上がらない方の腕から袖をとおすと着れる
- ・指の動きが弱い
- ・前明き、カフスのボタンがはめられない
- ・立座が不自由・靴下がはけない
- ・ズボンがスムーズにはけない
- ・座るとズボンの後ろが下がる
- ・シャツの裾をズボンの中に入れにくい（特に後）
- ・トイレがしにくい
- ・マジックテープは肌に悪くはずれにくい
- ・普段はポロシャツに細身のスラックスの組み合わせベルト通しにゴムを付けて、さらにベルトをしている（ポロシャツの裾をズボンの中に入れにくい工夫されていた）

#### 1) 着装の不満を解消するためのデザイン

表1のとおり、ア)イ)については、両腕が上がらないために着脱しにくいとの不満に対して、袖ぐりの深さを考慮しなければいけない。基本原型のメンズ袖ぐりの

表1 着装不満の解決案

	不満箇所	解決対策
着装の不自由さ	ア) 両腕が70度までしか上がらない。やっと顔まで届く	袖ぐりの深さを考慮する
	イ) 上衣着用時は、上がらない方の腕から袖をとおすと着れる	
	ウ) 指の動きが弱い	
	エ) 前明き、カフスのボタンがはめられない	マジックボタン、シーソーボタンなど使用する
	オ) 立座が不自由・靴下がはけない	ある程度のゆとりが必要
	カ) ズボンがスムーズにはけない	
	キ) 座るとズボンの後ろが下がる	後股上を長くする
	ク) マジックテープは肌に悪く、はずしにくい	マジックボタン
	ケ) シャツの裾をズボンの中に入れてにくい(特に後)	上衣の胴回りに平ゴムを使用する
	コ) トイレがしにくい	
サ) 普段はボロシャツに細身のスラックスの組み合わせのためベルト通しにゴムを付けて、さらにベルトをして工夫していたが、不便である。		

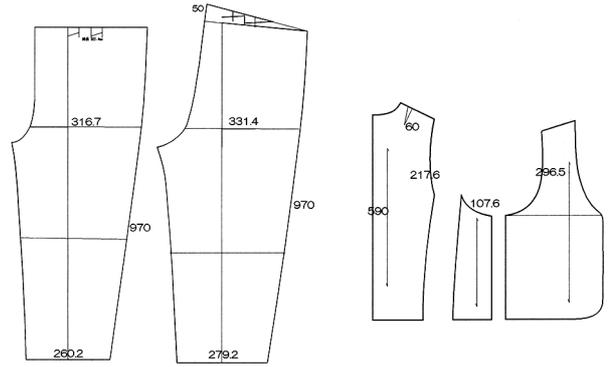


図1 リバーシブルベストとパンツのパターン



写真1 リバーシブルベストと



写真2 マジックボタン  
パンツ

底からSP(ショルダーポイント)までの長さは、胸囲/4+2.5の数式<sup>4)</sup>に当てはめ、さらに4cm加えた。ウ)エ)については、指に力が入らないためボタンを入れられないとの不満に対してマジックボタンや、シーソーボタン、ボタンの穴が脇よりのものなど考えられる。オ)カ)については、指に力が入らないためズボンが上げられないとの不満に対して、ズボンのゆとりや胴回りは、ゴムを使用するなど考えられる。キ)については、後ろ股上を長くする。ク)は、マジックボタンにする。ケ)コ)サ)については、シャツの裾をズボンの中に入れてにくいとの不満に対して、シャツの胴回りに平ゴムを使用することで、多少着やすくなるのではないかと考える。

以上のことから、以下の留意点によって、デザインをまとめた。

① リバーシブルベスト

- ・素材は、綿素材を使用している。綿素材は、強く吸湿性があり、肌触りも良く熱に強い特性を持っている。
- ・手持ちの衣服とのコーディネートを考えて、ベストはリバーシブル仕立てにしている。
- ・大きな蓋つきポケットを付けている。

- ・前中心は、マジックボタンを使用している。
- ・腕が上がらないことから袖ぐりは、629.7mmと大きくしている。
- ② カーゴ・パンツ
- ・素材は、綿素材を使用している。
- ・後股上は、前股上より105mm長くしていることで座ってもずれない。
- ・前明きのカギホック、ファスナー部分は、マジックボタンにしている。
- ・ウエストは、ストッパーを付けて長さの調整を可能とした。
- ・ハンカチやティッシュなど入れることを考え、腰回りの脇に大きめのポケットを付けた。

2. 試作品の製作

以下の手順によって試作品の製作を行った。

1) リバーシブルベストとパンツパターンの設計

ドレーピング技法を用いて、立体から平面に展開した。アパレルCADのデジタイザーで入力、パソコン上でパターン(囲み製図)を作成した(図1)。試着実験は、天竺を用いて1回と本布で2回、試着補正は合計3



写真3 ベストを脱いでいるところ

回実施している。写真1は、リバーシブルベストとパンツを着用した写真である。

### 2) 入所者B氏の着装評価1

リバーシブルベストとパンツについての着装評価は、以下のとおりである。

リバーシブルベストの評価は、「表裏ともに着用可能なため、1着で2通り楽しめる。大きな蓋つきポケットを付けているため物を入れやすい。ベストの明きの部分は、マジックボタンのため、はめやすく外しやすい。」という利点が挙げられた。しかし、両腕が70度までしか上がらないB氏は、ベストの着脱について、腕が通しにくいとの指摘があったことから再度補正を試みた。

パンツについての着装評価は、「ズボンの股上は長く、座ってもずれない。前明きのカギホック、ファスナー部分は、マジックボタンで取り外しが楽である(写真2)。胴回りは、ストッパーを付けて自由に長さの調整が出来る。」など利点が挙げられた。

### 3) 不満箇所および補正内容

上衣は腕が通しにくいという指摘があった。手はやっと顔まで届く(両腕が70度までしか上がらない)という状況から、図2のとおり、袖ぐりの底からSPまでの長さは、 $\text{胸囲} \div 4 + 25$  (mm)の数式に当てはめ、さらに40mmを加え、280mmと標準よりも40mm長くしているが、着脱に無理があったことから、袖ぐりの深さは肩から肘までの寸法より長く必要と考える。そこで、袖ぐりの深さを

を50mm長く330mmとし、さらに40mmのスリットを入れ、マジックボタンで留める方法を取った。写真3のとおり前回よりもスムーズに腕をとおすことが可能となった。また、猫背体型であるため、背丈は500mmとして長くしたが、背中が丸い分つられて、BNP(バックネックポイント：首の後部にある第7頸椎の部位。略してBNPという)と背幅の袖ぐりの位置で少し浮いてしまう(写真4)。これは、長さの調整だけでは美しいシエットが表現できないと考える。図3、図4のとおり、BNPの10mmと背幅の袖ぐりの15mmを背幅の位置でダーツの展開を行い、背にヨーク(後切り替え線)を入れた。その結果、BNPと袖ぐりは、体に沿う形になった(写真5)。下衣は、パンツの腰回りのゆとりが多いとの指摘があったため腰回りでゆとりを50mm縮めた。

その結果、入所者B氏より、袖ぐりの深さを長くして、さらにスリットを入れたことで腕が通しやすくなった。また、ズボンのゆとりも丁度良いとの評価をいただ

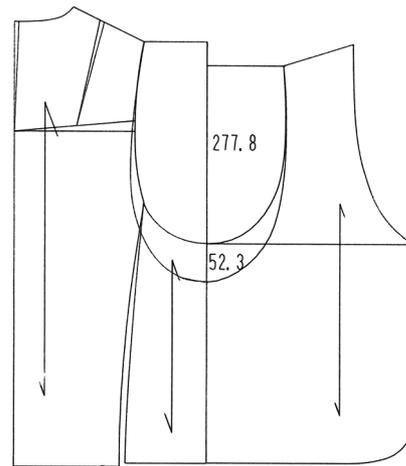


図3 ベスト ダーツの展開

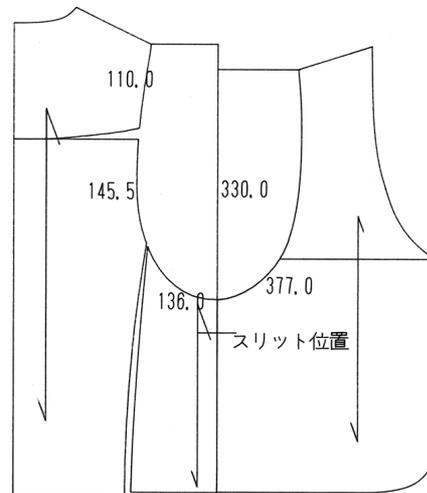


図4 ベスト パターン(補正後)

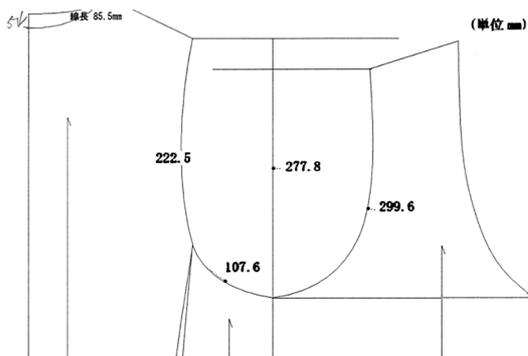


図2 ベスト袖ぐりパターン(補正前)



写真4 座っている状態



写真5 補正後のベストとパンツ



写真6 自宅療養されている  
第三者(J氏)の試  
着の様子



写真7 第三者(J氏)にお  
けるコーディネート

いた。

### 3. 第三者における着装感に基づく評価

調査協力者として自宅療養されている76歳の男性(J氏)が実際に着用し、その後評価を実施した。この調査協力者J氏の選定については、高齢者自身の着装の好みや身体機能を明らかにすることを目的としているため、日常生活におけるコミュニケーションが成立することが可能で、あきらかに体型の違う高齢者に限定した。

- ① 対象：自宅療養されている76歳の男性(J氏)  
日常生活自立度：非該当
- ② 方法：着用し、着装感、着心地などについて聞き取り調査を実施し、写真撮影を行った。
- ③ 結果：

「袖ぐりは、大きいため着やすい。両面着用でき楽しめる。ズボンにもベストにも、大きなポケットが付いているためチリ紙、ハンカチ、小銭など入れやすい。ゆとりも良く着やすい。」という評価が得られた。表2に示すとおり、高齢者賃貸住宅入所者B氏は、身長173cm、体重80kg、胸囲102cm、胴回り83cm、腰回り106cmであった。自宅療養されているJ氏は、身長160cm、体重73kg、胸囲95cm、胴回り80cm、腰回り100cmと全体に小柄な方であったが、問題なく着用できた(写真6)。また、多様な着まわしが出来るように、リバーシブル仕立てにしているが、写真7のように、上下逆に着用することも可能であり着方のバリエーションが増え、楽にコーディネートを楽しめると考える。また、袖下にスリット

表2 B氏、J氏における各箇所採寸表

	B氏 (79歳)	J氏 (76歳)	J氏とB氏 との差
身長 (cm)	173	160	13
体重 (kg)	80	73	7
胸囲 (cm)	102	95	7
胴回り (cm)	83	80	3
腰回り (cm)	106	100	6

を入れ、マジックボタンを付けているが、上下逆に着用すると、マジックボタンが前の腕ぐりのところになり、それが、ゆとりにもなり、さらにデザインのポイントにもなっている。

## IV. 考 察

両腕が70度までしか上がらない障害を持っていたことから、腕をとおして着用することが不自由なため、袖ぐりを深くし、さらに袖下でスリットを入れマジックボタンを使用し、デザイン性と機能性を加味した。また、前かがみの体型のため、BNPの位置、後袖ぐりの位置の2か所が浮いてしまったことは、猫背による高さから引っ張られることが原因と考えられる。したがって、後ヨークを入れダーツの展開をすることで浮き部分の処理ができた。しかし、猫背体型であるため、ダーツ展開の分量を多くすると逆に猫背が目立つようになったことも明らかである。猫背体型の場合は、微妙なダーツ展開の分量とデザインの工夫が重要と考える。また、リバーシブル仕立てにしていることから、幾通りも楽しめ、コーディネートしやすいことが明らかになった。

ユニバーサル・ファッションの特徴的工夫として、以下の点が挙げられる。

- ・後ヨークを入れ、ダーツ展開をすることで、背中丸みがカバーできる。
- ・後着丈を長くする。
- ・リバーシブル仕立てにすることで表裏両面着用可能となる。
- ・袖ぐりを広くすることで上下逆に着用可能となる。
- ・色、柄を楽しむことが重要である。肌の色がより明るく、綺麗に見せる色を選ぶ。

基本的なベストでありながら、機能性を加味したりリバーシブル仕立てにすることは、色、柄の幅が広がり、

さらに上下逆に着用できることで、多様にコーディネート  
のバリエーションが作られたことに高い評価が得られた。

さらに、表2のとおり、J氏は身長で13cm、胸囲で  
7cm、腰回り6cm小さくB氏よりも小柄で体重では  
7kgの差があるが、問題なく着用できた。

以上のことから、機能性を考慮して袖下で40mmの明き  
を作りマジックボタンを付けたことで着やすい構造に  
なっている。また、機能性を考えるならば、ポケットは  
欠かせないディテールである。さらには、コーディネー  
ションに広がりを見せるリバーシブル仕立てにすること  
は、ユニバーサル・ファッションの特徴として重要な要  
素となる。

## V. ま と め

第三者における着感に基づく評価として、試作品  
「ベスト」を第三者に着用し、その結果、それぞれに体  
型の違いが見られるが、ある一定水準の着装性、ファッ  
ション性に好評価を得た。

以上のことから、ユニバーサル・ファッションとして  
の考慮すべき重要な条件として、次の4点が見出され  
た。

- ① 体型や身体機能の変化を十分に考慮していること  
高齢者の場合、手足の可動域は狭まり、姿勢が前かが  
みになるなどの特徴が見られる。それに対応できうよう  
に身幅、袖ぐりなどにゆとりを持たせ、後丈を長めに  
することが必要である。また、座った時に後股上が下が  
らないように後股上を長くした。
- ② 着脱しやすい機能面での工夫が必要であること  
袖ぐり、袖幅を広くすることで着脱しやすい。ベスト  
は、袖下で40mmの明きを作り、マジックボタンを付けた  
ことで着やすい構造にした。また、機能性を考えるなら  
ば、ポケットは欠かせないディテールの一つである。さ  
らに副資材として、ユニバーサルボタン（シーソーボタ  
ンやマジックボタンなど）を利用した。
- ③ ファッション性を実現していること  
個々にもともと持っている着装欲求を刺激するような  
色や柄、デザインを実現することで心理的効果を高め  
る。異素材の組み合わせによるリバーシブル仕立ては、  
色、柄のバリエーションが増え幾通りにも楽しめる。ベ  
ストは、袖ぐりを深くすることで、上下逆に着ても着や  
すく首元も暖かくすることもでき効果的である。
- ④ 低コストで商品化できること  
上記の①～③の条件は、オートクチュールやオーダー  
メイドでは、当然実現できる。さらに、アパレルにおい  
ても、ベストは基本的なデザインであるため、男女兼用

が可能で、グレーディング（サイズ展開）が少なく、低  
コストで量産可能であると考えられる。

以上のことから、それぞれファッションに対する価値  
観の違い、身体機能や障害、ライフスタイルなど個人の  
条件は千差万別であり、求める顧客層に合わせることに  
重要であることが整理できた。これらを考慮するととも  
に、色彩、デザインのバリエーションを多く持つこと、  
グレーディングの重要性が示唆された。

全ての人が快適で自分らしい自己表現としてのファッ  
ションを追求するならば、個別対応にならざるを得ない。  
しかしながら、ユニバーサル・ファッションの考え  
方を普及する上で、個別にデザインされたものの中に一  
般性を見出すことにより、これらのディテールは、服作  
りの観点からより多くの人々に対応できうると考える。  
しかしながら、本研究においては、デザインするにあたり  
、アパレルでの実現が可能であることに配慮したが、  
実際にアパレル対応が可能であるかどうかについての検  
証は行われていない。

## 付記

この研究は、北翔大学北方圏学術情報センターの研究  
助成を受けて実施した。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、多大なる時間とご支援ご協  
力を頂戴しました。高齢者介護付賃貸住宅「廣樹庵」の  
皆様に深く感謝致します。

## 引用文献

- 1) 坂口昌章：「ユニバーサルファッションの課題と問題  
点」繊維トレンド (52) 2005 pp.80～84
- 2) 織田晃成：「長神話崩壊の果てに見えてきた持続可能  
社会への移行」ユニバーサルファッション研究部会  
2008 pp.61～63

## 参考文献

- 1) 高村是州：「スタイリングブック」株式会社グラ  
フィック社、2000
- 2) 間嶋佐智子：「レディスファッションの商品知識」株  
式会社ファッション教育社、1999
- 3) 富田玲子：「ユニバーサル・ファッションへのアプ  
ローチ」地域創成学 Vol.4 2013 pp.56～58